

# 年頭のごあいさつ

**町民一丸で未来創生と持続的発展に向けて歩む**

**厚真町長 宮坂 尚市朗**



2024年の輝かしい新春を迎えるにあたり、町民の皆さんに謹んでごあいさつ申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、本町に未曾有の災害をもたらした平成30年北海道胆振東部地震から5年という時を刻みました。順調に進む災害復旧事業や新型コロナウイルス感染症の5類への移行を受けて、ようやくご遺族並びに震災尽力者など多くの関係者をお迎えし、献歌の部を盛り込んだ厳肅な追悼式を行行できました。改めて犠牲となられた37名の方々を偲び、ご冥



田尻の皆さま、明けましておめで  
とうございます。  
皆さまには輝かしい新春を健やか  
にお迎えのことと心からお喜び申し  
上げます。

また、旧年中は田尻から町議会  
に対しまして、温かいご支援、ご指  
導を賜り心から厚くお礼を申し上げ  
ます。

さて、新型コロナウイルス感染症  
は5類に移行され収束の方向に向か  
われていると思われますが、年末か  
ら年始にかけインフルエンザの感染  
拡大が続いており、一人ひとりのこ  
まめな手洗いやうがい、場面に応じ  
てマスクを着用するなどの基本対策

が大切で、これらを習慣化することとが収束への近道だと思っております。また、ロシアによるウクライナ侵略やイスラエル・パレスチナ紛争など海外情勢の変化は、エネルギー価格や物価の高騰、さらには歴史的な円安により地域住民の暮らしに甚大な影響をおよぼし疲弊の一途をたどっている中ではあります。が、町民が参加する「あつま田舎まつり」、「厚真町文化祭」の2大イベントが通常通り開催され、皆さまが家族ぐるみで交流を深められたことや、日ごろの成果の発表をされたことは、大変喜ばしいことがあります。いずれのイベントでも大勢の皆さまの笑顔が広がりました。来年度も更なる活気と満ちあふれるイベントになる事を期待しております。

動向に期待し注視していく必要があります。

一方、町内においては、北海道胆振東部地震から6回目の春を迎えた。町の姿も環境も大きく変わり始めております。また、昨年7月にはさわやかな夏空の下で秋篠宮皇嗣同妃両殿下が吉野地区を視察され、つたえり公園内の慰靈碑をご覧になったあと沿道から小旗を振って出迎えた町民が見守る中で被災地の子どもたちとアカエゾマツを植樹されるなど、5年目としての節目を迎えました。

厚幌ダム、勇払東部導水管についても全町で供用開始されることにより基幹産業である農業が安定して営農できるようになりますが、気候変動や生産資材等の高騰など課題は山積されており、これからも、北海道や国に対して強く要請を行っていくなければならぬと考えております。

さて、議会としましても、昨年の4月に4年に1度の改選が行われ、11人の議員が町民の皆さまの負託を受けました。そのうち4人が新人議員であり、女性議員3人での新たな体制となり、議員一人ひとりがその責務を自覚し、議員としてより一層の資質の向上に努めるとともに、開かれた議会の下で自由闊達(かつた)な議論を行い、十分な審議及び

審査を尽くし、町民に対し積極的な情報発信を行うとともに、町民の多様な意見の把握に努め、議会としての政策形成機能を強化するなど、議会の改革・活性化に引き続き取り組みながら、町民の皆さまの負託とご期待に応えるべく、誠心誠意尽くしてまいる所存であります。

また、北海道全体的な話ではありますが、次世代半導体の量産を目指すラピダスが千歳市に進出することは、計り知れない経済効果をもたらすことになるでしょう。2025年の試作ライン稼働に向け物流や人の流れは増加しております。これに伴い厚真町においても経済波及効果をもたらせることができるよう町内関係機関とも連携を取りながら協力していくことを考えております。

どうか、本年も町議会に対し、さらなるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆さまにとってましてご健康で幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新春のごあいさつとさせていただきます。

旧・復興とその先にある地域創生と持続的発展に向けた歩みを町民一丸となつて進めていくことをお誓い申し上げました。発災からこれまでの間、全国・全道の関係機関から深いご理解と多大なご尽力を賜り、また、全国から寄せられた温かいご支援に重ねて心から感謝申し上げます。

町内では、人里に近い急傾斜地の安全確保と社会基盤の復旧工事は、概ね完了しています。森林再生については、令和8年度までを重点取り組み期間として、これまでの取り組みをさらに加速させていきますが、心のサポートや宅地耐震化事業については、引き続き丁寧な対応を心がけてまいります。

未曾有の困難にあっても、決して努力を惜しまず、夢を諦めない私たち厚眞の町民ですから、一人ひとりの未来を切り拓く決意とご理解により、ここまで復旧を進めることができました。一方で、被災された町民の皆さまが抱える不安、悩みはこの短期間では、決して癒えることはありません。それぞれの不安ができるながら、被災者に寄り添い誰一人として取り残すことのない復旧・復興を目指して努力を続けてまいります。

とのないよう、教訓と復旧・復興の記憶や経験を町内外と共有し、継承していくいかなければなりません。昨年は、これまでの道のりを振り返り、改めて経過検証するシンポジウムを開催するとともに、被災者や尽力者の皆さまの貴重な証言集として復旧・復興記録誌も刊行しました。日本各地で繰り返される自然災害や甚大な被害が想定されている日本海溝・千島海溝、南海トラフにおける大規模な津波を伴う海溝型地震災害も注目されており、引き続き、命を守る防災・減災対策に全力で取り組んでまいります。

出口の見通せない国際紛争は、東アジアにおける安全保障への危機と物価・資材の高騰など、私たちの生活や経済活動に脅威をもたらします。その一方で、GX（グリーン・トランスフォーメーション）やDX（デジタルトランスフォーメーション）により経済社会システム全体の変革が進展しており、変化への対応力、強靭性・復元性を必要としながらも長期的な視点に立ち高度な循環型社会を目指す必要があります。

国においては新しい資本主義による経済拡大と安全保障の強化を目指していますが、食料安全保障という観点においては懸念がぬぐえません。

おかしくない自然災害に備えての庁舎周辺整備や防災・減災対策、エネルギー地産地消や省エネルギー・創エネルギー・吸収源対策を官・民・学で総合的に取り組んでいくカーボンニュートラル政策を展開し、着実に実装しながら復興の新たな骨格としてまいります。併せて分野別に技術の導入やSociety5.0など社会技術革新を取り込みながら次世代に向けて潜在力を耕し直し、可能性という羅針盤を掲げながら地域創生というハーベードルにも果敢に取り組んでまいります。

1次産業を基幹とする本町ですが、人材育成と関係人口の拡大、そして地政学的優位性を根幹として、原点回帰ともいえる人と人との繋がり、信頼と寛容、自然環境の回復に傾注しながら、新たな潮流を先取りしつつ、復興から創生へと歩みを加速させてまいります。

結びに、「変革・転機」や「激動」の年と言われる甲辰年が、明るく希望の持てる年でありますことと、町民の皆さまのご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

審査を尽くし、町民に対し積極的な情報発信を行うとともに、町民の多様な意見の把握に努め、議会としての政策形成機能を強化するなど、議会の改革・活性化に引き続き取り組みながら、町民の皆さまの負託とご期待に応えるべく、誠心誠意尽くしてまいる所存であります。

また、北海道全体的な話ではありますが、次世代半導体の量産を目指すラピダスが千歳市に進出することは、計り知れない経済効果をもたらすことになるでしょう。2025年の試作ライン稼働に向け物流や人の流れは増加しております。これに伴い厚真町においても経済波及効果をもたらせることができるよう町内関係機関とも連携を取りながら協力していくことを考えております。

どうか、本年も町議会に対し、さらなるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆さまにとってましてご健康で幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新春のごあいさつとさせていただきます。

広報あつま 令和6年1月号

2024年1月号 広報あつま 4